

授業科目名	グローバル社会概論	授業形態	講義
英語科目名	Introduction to a Global Society	開講学期	前期
対象学年	2	単位数	2
科目責任者	玉村 健志	ナンバリング	4101
科目担当者			
玉村 健志、佐々木 優、下斗米 秀之、嶽本 新奈			
授業の概要			
<p>本授業は、グローバル社会領域の導入的な授業であり、全二年生の必修科目の一つである。グローバル社会領域では、紛争、外交、人種・民族対立、国際協力、経済連携、ビジネス、格差、貧困、食料危機、地球環境、ジェンダー平等等々の「グローバルな社会問題」を学ぶ。グローバルヘルス領域や異文化コミュニケーション領域が人間個人レベルの諸問題に主に焦点を当てるのに対し、グローバル社会領域は政治学、社会学、経済学等の社会科学のアプローチを用いて、社会レベルの諸問題を主に分析の対象とする。</p> <p>グローバル化は地域レベル、国家レベル、国際レベルの各社会に対して様々な影響をもたらしているが、この授業ではそれら社会レベルの問題を検討し、討議する。グローバルな社会問題を把握することで、ニュースや専門書を理解したり、それらを将来的に活かしたりするために必要な基礎知識を学ぶことを目的とする。</p>			
【関連するディプロマポリシー（DP）】			
<p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>			
授業の達成目標			
<p>(1) 世界で起きていることについて、ニュースで見たり新聞で読んだりした事柄に関して自分なりの説明ができる</p> <p>(2) グローバル化した世界における現状と課題を理解できる</p> <p>(3) 自分の意見を述べられる発信力を持つ</p> <p>(4) 物事の見方は一つではないことを理解し、自分とは異なる意見も理解できる</p> <p>(5) グローバル社会領域のその他の専門科目を効果的に学習していく上での土台をつくる</p>			
成績評価方法			
<p>リアクションペーパー71%、レポート20%、事前予習課題9%</p> <p>詳しい内訳については授業内で発表します。</p> <p>いわゆる出席点はありません。単に出席しただけでは単位をとることはできないので気をつけること。</p> <p>60%以上の達成で単位認定となる。必修科目のため単位が取れなければ次年度に再履修となる。</p>			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
<p>基本的に課題はGoogleclass上で提出してもらうため、事前に本授業のGoogleclassに参加すること。クラスへの招待メールはJ-Passで送るので確認すること。</p> <p>木曜は対面授業日だが、2年生以上は5/7まで全授業がオンライン授業での実施となる。また、出欠は教室での受講者も含めてZoomへのアクセスで確認する。よって履修者は全員、Googleclassにある「授業の手引き」を事前に確認し、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを事前に提出すること（必須）。「約束」提出者にのみ第2回目以降の授業のZoomパスワードが送付される。「約束」未提出者がZoomに参加した場合はパスワードをリセットするので注意すること。</p> <p>授業内でディスカッションを行うこともあるので、ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢について予めある程度情報を得ておくこと</p> <p>何よりも授業参加者（受講生、教員共に）に対して礼儀正しく振舞うこと。意見を戦わせること自体は推奨される一方で、個人の人格を貶めたり、傷つけたりすることは許容されない。</p>			
テキスト・参考書			
<p>教科書は指定しない。各トピックに関するものは授業内で都度紹介する。</p> <p>参考図書として下記を挙げる。</p> <p>坂出健ほか編『入門アメリカ経済Q &amp; A 1 0 0』（中央経済社、2019年）</p>			
オフィスアワー			
各教員のオフィスアワーを確認すること			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法			
必要に応じて課題を授業内および授業後に返却する。あるいは授業内で全体的な講評を行う。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）

1	玉村 健志、 佐々木 優	グローバル社会領域は何を学ぶ学問領域なのか、その意義は何か、みなさんと共に考えつつ、この講義の概要を説明する。	【予習】シラバスをよく読み、持参する。「グローバル社会」とは何を考えてくる(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
2	玉村 健志	グローバル化の功罪	【予習】グローバル化のメリットとデメリットは何か、自分なりの意見を予め考えてくること(90分) 【復習】グローバル化のメリットとデメリットについてリアクションペーパーを書く(90分)
3	玉村 健志	持続可能な発展	【予習】我々の住む世界が持続可能であるためにはどうすればよいのか、自分の意見を考えてくること(90分) 【復習】持続可能な世界の構築に自分ができることについてリアクションペーパーを書く(90分)
4	玉村 健志	国際機構とNGO	【予習】国際組織やNGOはなぜ必要か(不要ならなぜ不要か)自分の意見を考えてくる(90分) 【復習】国際組織やNGOは誰にとってどのような場面で必要か/不要か、自分の意見を書く(90分)
5	佐々木 優	経済のグローバル化とは?	【予習】私たちと世界とのつながりについて、普段の生活にある物やサービスをベースに調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
6	佐々木 優	貿易の拡大と豊かな生活	【予習】私たちが消費している物やサービスが何処(国や地域)で作られているかを調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
7	佐々木 優	企業のグローバル戦略とその功罪	【予習】日本のどのような企業が海外に進出し、ビジネスを行っているかを調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
8	玉村 健志、 佐々木 優、 ゲスト講師	ゲストスピーカーによる講演	【予習】本やネットで難民やUNHCRに関する情報を収集すること(90分) 【復習】講演の内容の振り返り、また自分でも補足情報を調べ、リアクションペーパーを書く(90分)
9	玉村 健志、 佐々木 優、 ゲスト講師	国連UNHCR難民映画祭上映作品を鑑賞し、難民問題を考える。	【予習】授業テーマについて自分なりの考えをまとめておくこと(90分) 【復習】映画の内容の振り返り、また自分でも補足情報を調べ、リアクションペーパーを書く(90分)
10	下斗米 秀之	アメリカ経済史にとって移民とは何か	【予習】アメリカ経済史がどのような学問なのか事前に調べておく(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす(90分)
11	下斗米 秀之	アメリカの不法移民問題—歴史と現状	【予習】アメリカの不法移民について事前に調べておく(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす(90分)
12	下斗米 秀之	高技能移民とアメリカ経済	【予習】人口減少時代において都市の再編はいかにして可能か、情報収集を行い自分の考えを用意しておくこと(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす。課題所要時間は概ね90分をみておくこと。
13	嶽本 新奈	ジェンダーってなんだろう?	【予習】事前に日本のジェンダーギャップ指数を調べておき、日本のジェンダー格差をどの場面で感じるか考えておく(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす(90分)
14	嶽本 新奈	身近なファッションから考える貧困と環境問題	【予習】事前に自分の服の3日間のコーディネートを考えて、その生産国上位3カ国を調べておく(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす(90分)
15	嶽本 新奈	SDGsとジェンダー	【予習】これまでの2回の授業を踏まえてジェンダーの問題点を克服するために何が必要かを考え、まとめておく(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす(90分)


授業科目名	異文化コミュニケーション概論	授業形態	講義
英語科目名	Intercultural Communication	開講学期	前期
対象学年	2	単位数	2
科目責任者	岡部 大祐	ナンバリング	4102
科目担当者			
今井 純子、岡部 大祐、齊藤 美野、高濱 愛、原 和也			
授業の概要			
<p>本科目は、異文化コミュニケーションを理解・考察するための基本理論・概念の習得を目的とする。講義、ワーク、意見交換などを通じて、異文化コミュニケーションに関わる理論・概念を具体例とともに学び、様々な現象を分析・考察する練習も行う。受講生は、協働作業も含めた作品制作課題発表、グローバルな社会的課題と関連したリサーチおよび意見交換などの諸活動を通じて、異なる考え方や価値観への気づきを得ることが期待される。</p> <p>大学の授業というコンテキストにおいても、異なる文化的背景をもつ人々のやりとりが行われていることに注意を向けながら、体験を通じた学びを積み重ねる。本科目での学びを通じ、受講生には、自己、他者、そして様々な現象を多様な視点から捉えることができる柔軟性に加え、異文化に対する許容力を備えた、異文化コミュニケーションへの道を主体的に探っていくことを期待する。</p> <p>本科目では上記に記した目的達成のため、事前学習を経ての授業内ワーク（ディスカッション他）を中心とした活動を行う反転形式を採用する。そのために基本文献の講読、講義視聴といった事前準備が必須となることをあらかじめ明記しておく。</p> <p>本科目は、Google Classroomに必要情報が掲載されるので、履修者は全員Google Classroomへの参加が必要となる。Google Classroomへの不参加ないし参加の遅れによる成績上の不利益が生じても、一切の補填は行わない。各自自覚をもって初回授業までにGoogle Classroomへの参加を完了すること。</p> <p>※ 授業計画・運営方法は、今後の社会や、zoomなど諸システムの状況、進行具合などにより変更の可能性あり。</p> <p>【関連するディプロマポリシー（DP）】</p> <p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力</p> <p>DP③ 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化コミュニケーション学の基礎理論・概念について説明できる。</li> <li>2. 異文化コミュニケーション学の理論・概念を用いて、文化相対的な視点から諸現象を分析・考察できる。</li> </ol>			
成績評価方法			
<p>参加度（60％）、ICプロジェクト課題（20％）、期末試験（20％）の合計点に基づき評価する。コース全体の3分の2以上の出席が成績評価対象の条件となる。※「出席」の考え方については下記参照。</p> <p>※ 本科目における「出席」とは、事前課題を完遂した上で講義（LIVE）に「参加」し、当該授業回の理解に至っていると担当教員が判断可能な成果物を提出することにより、あるいは指定の方法にそって遂行された課題を提出することにより認められるものである。単に講義（LIVE）に「アクセス」したり、課題を提出することがすなわち「出席」となるわけではない。この点を十分理解した上で授業に臨んでほしい。</p>			
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「授業の手引き」を確認したうえで、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを提出している。</li> <li>2. 初回授業に必ず出席すること。初回授業時に説明したことは以降の授業の前提となる。</li> <li>3. 講義の視聴・課題提出を指定期間内に行う意志をもっていること。</li> </ol>			
テキスト・参考書			
<p>教科書：なし（リーディング・パケットを配布する）</p> <p>参考書：石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人（2013）. 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣。</p>			
オフィスアワー			
各教員のオフィスアワー（本学部生専用ウェブに記載）を参照し、個別にコンタクトを取る。科目全体についての問い合わせは、Google Classroomもしくは岡部（d-okabe@juntendo.ac.jp）まで。			

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

課題へのフィードバックは、講義内で行うことを基本とし、適宜Google Classroomも活用する。

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】

授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）
1 4/13	上記担当教員	異文化コミュニケーション学への招待 ～なぜ今、ここで異文化コミュニケーションを学ぶのか	【予習】本科目のGoogle Classroomに参加し、「オリエンテーション」を視聴し、シラバス内容を確認しておく（60分） 【復習】自分の学生生活、その後のキャリアに異文化コミュニケーション学が有意義であることを1分程度で説明できるように文章化する（60分）
2 4/2	上記担当教員	理論編（1） 異文化コミュニケーション学のコンテキスト（岡部・原） 1）異文化コミュニケーション今昔物語 2）現代異文化コミュニケーション学の射程	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
3 4/27	上記担当教員	理論編（2） 異文化コミュニケーションにおける言語と文化（今井） 1）グローバル社会での言語の捉え方 2）国際語の文化とは？	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
4 5/11	上記担当教員	理論編（3） 異文化コミュニケーションとしての翻訳（齊藤） 1）翻訳とは何だろうか？ 2）3種類の翻訳	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
5 5/18	上記担当教員	理論編（4） 立ち現れる異文化コミュニケーション（岡部） 1）それで、「異文化」はどこにある？ 2）異文化コミュニケーション・X世代～ディスコースという視点	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
6 5/25	上記担当教員	理論編（5） 異文化適応とカルチャーショック（高濱） 1）異文化適応のモデルを理解する 2）カルチャーショックについて学ぶ	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
7 6/1	上記担当教員	理論編（6） 文化の深層構造—人は皆文化人—（原） 1）文化の三層構造モデル 2）価値観・世界観	【予習】指定文献を読み、講義を視聴した上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む（90分） 【復習】授業で学んだことをノート等に整理し、曖昧な部分を調べて解決する（90分）
8 6/8	上記担当教員	理論編から実践編へ 1）理論編まとめ 2）実践編への展開の説明 3）ICプロジェクトの説明	【予習】ノートテイクをした理論編のキーワードとその意味を確認し、自分のことばで表現できるようにしておく（180分） 【復習】プロジェクト要領をグループメンバーと確認し、



--	--	--	--

授業科目名	グローバルヘルスサービス概論		授業形態	講義
英語科目名	Global Health Service		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4103
科目担当者				
加藤 洋一、湯浅 資之、田村 好史、ニヨンサバ フランソワ、大野 直子、白山 芳久、鈴木 美奈子、峰松 義博、阿曾 沼 元 博				
授業の概要				
<p>健康は誰にとっても非常に重要であるにもかかわらず、先進国のヘルスケアシステムは年々増加する莫大な費用に対応できず、限界に達しつつある。開発途上国では、熱帯風土病が今も大きな課題であり、同時にグローバル化している。これらグローバルヘルスの課題について理解するとともに、その解決に向けての行政、企業、医療サービス提供側の対応について学習する。その前提として、人の健康がいかにして保たれているかを知り、個々人が自らの健康を管理していく時代が来ていることについて理解を深める。</p> <p>【関連するディプロマポリシー（DP）】</p> <p>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力</p> <p>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力</p> <p>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルヘルスサービス各論を学ぶ上で、問題の所在がどこにあるかを説明することができる。</li> <li>2. 現代の国際社会に求められるヘルスリテラシーにつき、その重要性と日本の抱えている問題点について説明することができる。</li> <li>3. 健康を守るというローカルな営みに、グローバルな関与が求められる理由は何なのかについて意見を述べることができる。</li> </ol>				
成績評価方法				
講義への出席（および参加度）、リアクションペーパー、定期試験を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意（受講条件・受講に当たって学生に望むこと）				
一方的な講義ではなく、講師と学生が双方向に意見を交換する授業形態を目指すので、学生の積極的な参加を期待する。				
テキスト・参考書				
テキストは使わず、毎回のテーマに沿った参考文献を、担当教員より指示する。				
オフィスアワー				
各教員のオフィスアワーを確認すること。専任教員以外は原則として授業の前後とする。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法				
必要に応じて授業内で返却予定。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等（予習、復習レポート等課題の指示）	
1	木南 英紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルヘルスとは何か</li> <li>・過去のグローバルヘルスの取組み例</li> <li>・今日のグローバルヘルスの課題</li> <li>・グローバルヘルスの発展に重要な予防医学</li> </ul>	<p>【予習】各国における平均寿命と収入との関係を調べること。（90分）</p> <p>【復習】グローバルヘルスの重要な知識・情報を世界の人々と共有することの重要性を理解すること。（90分）</p>	
2	ニヨンサバ フランソワ	グローバルヘルスの視点からの感染症	<p>【予習】三大感染症と新興感染症について教科書・Web検索情報に目を通しておくこと。自己学習を行う。（90分）</p> <p>【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。（90分）</p>	
3	加藤 洋一	現代の国際社会に求められるヘルスリテラシー	【予習】ヘルスリテラシーの定義を調べ、「グローバルな疾病負荷」(GBD)のデータベースをウェブサイトで確認し	



			ておくこと。(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
4	鈴木 美奈子	21世紀の健康戦略：ヘルスプロモーションの歴史・概念・実践について学ぶ。 特に、オタワ憲章とバンコク憲章を中心に学習する。	【予習】ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章に目を通しておくこと。(90分) 【復習】ヘルスサービスの方向転換についてまとめておくこと。(90分)
5	鈴木 美奈子	企業におけるCSRと健康経営について、ヘルスプロモーションとの関連から学ぶ。グローバル社会を意識した新たなヘルスサービスやヘルスマネジメントについて考える。	【予習】CSRや健康経営について調べておく。(90分) 【復習】CSRや健康経営とヘルスサービスとの関連についてまとめておく。(90分)
6	田村 好史	糖尿病とヘルスケアシステム	【予習】糖尿病とその予防について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分)  糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後は予防的な取り組みが重要視されている。本章では、糖尿病の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、糖尿病を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
7	田村 好史→吉澤裕世に変更になりました。	介護予防とヘルスケアシステム	【予習】介護の現状について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分)  我が国は世界で最も早く高齢化が進んでおり、世界的に注目されている。寝たきり、介護は財政的にも本人家族のQOLにとっても深刻な問題として認識されているため、今後何らかの打開策が必要である。本章では、介護の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、介護を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
8	峰松 義博	多岐にわたる(氾濫する)健康関連情報を元に、社会科学の視点から、「健幸(康)」について考える	【予習】健康関連情報についてWeb検索で調べる(90分) 【復習】授業内容(健康情報)の概要を理解する(90分)
9	峰松 義博	自分や家族の健康ライフプランを考える(発表と議論)	【予習】自分や家族(親、子)の健康ライフプランを考える(90分) 【復習】健幸(康)について捉え直す(90分)
10	大野 直子	グローバルヘルスサービスにおける医療コミュニケーション	【予習】(90分)ヘルスコミュニケーション/医療コミュニケーションの定義について調べておく。 【復習】(90分)予防・治療におけるヘルスコミュニケーションの役割についてまとめておく。(90分)
11	白山 芳久	ヘルス・サービスや社会医学を議論する際に前提となる保健統計、今回は人口(population)について学ぶ。 「世界の中の日本」を意識し、世界各地の成人の平均BMI、生産人口の割合、就学率、貧困率など、様々な統計データを参照する。人口構造(population structure)のアンバランスから生じる様々な課題をどのように乗り越えるか、解決策についても議論したい。	【予習】日本と世界の人口統計について自分なりに調べてくる(90分) 【復習】授業中に与えられた課題レポートに取り組む(90分)
12	阿曾沼 元博	情報化社会の進展と我々一人一人の関わりに関して「電子カルテシステム」を通して考える	【予習】各病院が導入を推進している電子カルテシステムの概略を調べておく(90分) 【復習】医療情報の利活用に関しては、国の医療制度との

